

佐渡略風土記

秋

|      |         |
|------|---------|
| 内閣文庫 |         |
| 番號   | 和 16543 |
| 冊數   | 4 ( 3 ) |
| 函號   | 175 102 |

|      |      |
|------|------|
| 内閣文庫 |      |
| 毛五箇  | 二五四三 |
| 架    | 冊    |
| 和書   | 類    |



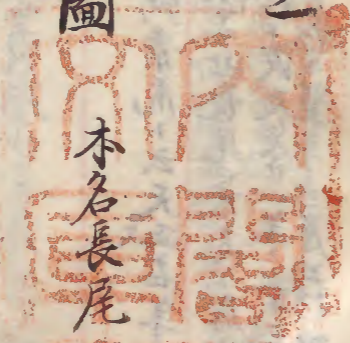


佐渡畧風土記卷之三



上杉系圖

本名長尾



良兼

桓武天皇孫上總公高望ノ三男良兼ノ孫  
八家上成是ヲ坂東八平氏ト云

忠道

為道

忠道ノ子長門守為道ト云  
是ハ三浦家ノ元祖

景道

忠道ノ二男鎌倉權大夫景道  
是ハ梶原氏ノ元祖

景成

忠道ノ三男權頭景成

景政

景成ノ子鎌倉權五郎景政ト云  
是ハ大場長尾氏ノ元祖

景忠

太郎

景宗

景忠ノ子庄司景宗  
是ハ大場殿野豊田氏ノ元祖

景弘

景忠ノ子治郎景弘ト云  
是ヨリ始テ長尾氏ト云

定景

景弘ノ子長尾新六定景ト云

明治十年購求







綱勝

定勝ノ子兼應三癸巳三月三日從四位下叙侍從任又攝戶部上号綱勝之  
屬志 劔寬永四甲辰壬五月七日於江戸卒年十七奉令嗣十三之茲清和  
天皇二十二代後 吉良上野公義英之德勝智算叔世長男三月月ヲ家督  
也下遺言同六月吉上杉ノ門葉家臣多殿中ニ召上掃戶守未羽卷ヲ  
願是也制法ヲ破不届月願也召上保上杉ノ其家舊以家名斷絶ヲ  
残念ニ思召福島頼平分上上杉十五万石新規三月月ノ不則三月月ヲ  
上杉喜平治京倫上号

女子

松平丹後守元茂室

女子

松平飛騨守利治室

綱憲

三郎系倫上云定室三乙卯年十二月九日 家綱公所命テ元服之徳也  
ヲ降順上ヲ保憲上改以時從四位下侍從叙任淨心大尉上号其後紀伊茨門  
老貞公ノ尊上成

吉憲

民部大輔從四位侍從吉憲上云

憲孝

主殿上云早世

勝因

駿河守上云

勝延

式部上云

女子

黒田甲斐守長治室

宗憲

淨心大尉從四位侍從

宗房

民部大輔從四位侍從

重足

大炊頭從四位侍從







加茂郡 舟屋河村

推野市

須賀修理

山村孫三郎

河村彦左衛門

一慶長三戌

一同日巳亥

一同日庚子

田中捨地別

河村彦左衛門文政一

一同日辛丑

今年所料

苗圃田中捨地別

河村彦左衛門文政一

河村彦左衛門

田中捨地別

苗圃田中捨地別

相川浪山始

治承

法政浪土酒造

一延享七乙寅

五年寅初九

四年卯上今年延二年

一同日癸卯



家康公征夷大將軍

今年八月望辰年進二年八月

相川府中始也

市上使

割首寄山五明

一芝長九甲辰

今年八月望辰年進二年八月  
今年八月望辰年進二年八月  
陣屋始也

合以之祝

吉田佐吉郎

中川市在

吉田佐吉郎

板倉重人

此下四重仍住  
坂倉重人

核目

大之保石見也  
用人 大之保山端也

小宮山致親

長谷川信實

北条信成

吉田重吉

如多又平

小川重人

浪山之六赤尾之吉野乃寄山五明

山五明乃寄山五明  
七年八月望辰年進二年八月

浪山之六赤尾之吉野乃寄山五明  
七年八月望辰年進二年八月

大之保石見也  
由緒事



一、久保石見守長安初号大和山太虎大備用列武因信云精忠令  
妻方任卿之信云越者後務於令悒々迎電甲列之者列於位  
其氏大久保相授曾忠隣之弟也其好政事順從遊真之者安備  
求忠隣之文由以令方之忠隣之伯父大久保治左衛門忠休之  
名字之序大虎大備之大久保主之長及甲列之事也之政政財  
柱况孫孫孫河岩岡全唐山也極方之山之上方之何右之系  
山不極方之山所例之役人其山者虎之之山也之何  
山者之山也之山也之山也之山也之山也之山也之山也之山也  
之方石之下月山後山之在任從之信下大久保石見守之昇進之  
此形代伊赤保中守初号無虎之去其名字今八伊赤之書其西人  
西之山順把也虎之初之祐王金浪山之記列之任後浪山日初牙之

用山也初一年有虎之身之可也之其長八年之支既將奉辰  
四月八日想勢百孫人之任列波海夫既十一年其長八年七  
月廿七日浪浪山卒之法名法廣院殿一の銘元大居士下号  
御和長安死去未忘也之也之也之也之也之也之也之也之也之  
上使之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也  
人見事之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也  
涉及長安之任浪山一武順把石殘之也之上男子之人也之樂  
斬罪名各斷絶

武村誠信因之南順而此編乃八代發行柳伊赤長主系也  
許之如涉海之上双方理球攻以中其如球分之而後其後  
石見守長安任列任事之知也其後其長安任列之也列







知以不無為之修於高僧之也處承古古旨乃名之後海月  
尚金設人秀脫衣男子七千并如續

淨土宗

寺田村  
西方寺

右西方寺之在見智及住持方之

法隆院殿一の胡克大居士

横地正隆門住持石像之

法隆院殿西卷法薰禪足門

石隆法后之并年号忘日之了

過去佛之并年月之

同人勇方

法隆院正卷雲尔大祥比丘住持

石隆寺方之并年号忘日之了

右西方寺之在法隆院殿抄佛堂之記之元之後山宿成寺号

并西年来至僧住藏之并年号忘日之了

初之环陀佛殿列之住之并年号忘日之了

忘日其介并物方之并年号忘日之了

一慶長十己巳

秀惠公証夷大將軍

今年之十四角年迄六年一向大保石之号為在三人也

地方便人

大久保山佛堂

澤山用人

吉田山寺也

以

宗是休渡也



大山祇勸修

一 同十二丙午

一 同十三丁未

一 同十三戊申

一 同十四己酉

一 同十九壬子

一 慶長十五庚戌

今年十八年進江年 有御書名為人耳

一 同十六辛亥

大久保山城守  
宗是也

一 同十七壬子  
一 同十八癸丑

今年元和乙年進江年 有御書名今年斗

石名

同宮新長屋

石名

田邊十郎

石名

竹村九郎

石名

米屋助長

石名

笠井玄九郎

山邊上流

一 根子八百拾九段 皇曰拾段 分甲

一 筋令九音 拾段



一 勘合控最七番目

一 小判九百石

一月十九日

一 浪五首九控五首七番目

一 勘合小判五首七番目

一 勘合小判五首七番目

一 小判五首七番目

浪山十五番目

相川控最及相川控最七番目

元小判五首七番目

一 元和元乙卯

今年之迄延之元年之旨田邊六番常之勤

横目元

横目元

田邊十郎左衛門

浪山五首

一 浪五首七控八首七番目

一 勘合小判五首七番目

一 勘合小判五首七番目

一 小判五首七番目

一月二日

浪山二十一番目

浪山五首







己七月

御覽文在焉

中道之記

- 一 浪子九指八指七指六指五指四指
- 一 筋令拾費百指四指
- 一 砂令拾費四指
- 一 山判六指
- 一 元和己年

今年之定求公未年進十而年之旨

法月市在焉

伊原聖

丸手在焉

中道之記  
 浪子九指八指七指六指五指四指  
 筋令拾費百指四指  
 砂令拾費四指  
 山判六指  
 元和己年  
 今年之定求公未年進十而年之旨  
 法月市在焉  
 伊原聖  
 丸手在焉

浪子九指八指七指六指五指四指

筋令拾費百指四指

砂令拾費四指

山判六指

元和己年

今年之定求公未年進十而年之旨

法月市在焉

伊原聖

丸手在焉



世皇王御記

一 浪之子は孫の貴く言はれ給ふ也

一 御令孫の貴く言はれ給ふ也

一 御令孫の貴く言はれ給ふ也

一 御令孫の貴く言はれ給ふ也

浪山は御連今年は浪山は向吹と成り舞は右向吹と和  
江戸上御元おき

一元和お己未

九月廿一日は御連の山皇浪子の貴く言はれ給ふ也  
江戸上御元おき浪山は向吹と成り舞は右向吹と和  
九月廿一日は御連の山皇浪子の貴く言はれ給ふ也

想書書月上中は山皇浪子の貴く言はれ給ふ也  
遠下は浪山は向吹と成り舞は右向吹と和  
買石は山皇浪子の貴く言はれ給ふ也

御令孫の貴く言はれ給ふ也

御令孫の貴く言はれ給ふ也

御令孫の貴く言はれ給ふ也

御令孫の貴く言はれ給ふ也

世皇王御記

一 浪之子は孫の貴く言はれ給ふ也

一 御令孫の貴く言はれ給ふ也

一 御令孫の貴く言はれ給ふ也



一 山判書方子之右口様式書

流人 江戸市所之目 筆尾忠康

江戸市所 尾花

江戸市所 九郎

一元和六 唐車

江在申三月八日相月述之右様書之誠中法儀同金書更  
以積下此紙如片山勘兼主旨の様為一様与山積下云  
西此仕立兼月分秋田持者門自今山之左及取書之了  
御金印人老有智故紙様並紙之旨或様為之了書印月  
御此宛不意一紙江戸人信自及行村及之紙哉  
依列之實公御令山判依列之書

柱月中十日割別方方之地之方或音為書吹音一紙紙色宛  
中。行村及山様之

山宮上様

一 浪之右音口様書其七音九様之分

一 御令於七實之音九様之分ハハ云也

一 御令之實下様同ハハ

一 山判書方九之右音之方之書

山宮上様ノ右音之様書同様何ハ云也依列之紙

流人 江戸市所通ハ 依實

一元和七 唐車

向山依此之由有書石田左衛門右衛門山宮之書行村







山室上帳

- 一 浪の二百拾貫九百程の包九下
- 一 箱の二百拾貫七拾四の包
- 一 砂金四百拾貫の包
- 一 小判貳万の七百七拾の包

一元和八主成

江戸名哲傳の成小判の百貫代の拾貫目拾五貫目小判後  
 戻成浪の新得戻成浪の二拾五兩枚の文金の百貫目小判  
 江巻の箱金可くは小判後浪迄流し大石元小判の包  
 と成りたる百貫目小判の箱金拾五兩の包  
 浪後戻成浪新得戻成浪の事不審に

山室上帳

- 一 浪の二百拾貫九百程の包九下
- 一 箱の二百拾貫七拾九の包
- 一 砂金四百拾貫の包
- 一 小判貳万の四百拾の包
- 一 苗下年浪後浪の包
- 一 浪の百貫の包
- 一 小判貳万の八百拾の包
- 一 砂金九拾七枚の包

右少希帳の

一元和九主成

家元公純大將軍

浪馬所  
 形紙  
 西三月







新田園發者之山内村之

化山炭山及山故免

相傳守令之免

山内村由炭溪示相借

之月徳丹女日分山實之山故接限之百七拾貫目原

流人 山内村由炭溪示相借

一月六日己 山内村由炭溪示相借

今明年一町目六月八日延町並定

流人 山内村由炭溪示相借

一月七庚午 六月政奉八月得正 山内村由炭溪示相借

山内村由炭溪示相借

一寛永八年辛未

今年六月十日延町並定

山内村由炭溪示相借

一月九壬申

百姓町人山内村由炭溪示相借

山内村由炭溪示相借

一月十癸酉

今年六月十日延町並定

山内村由炭溪示相借

山内村由炭溪示相借



諸事嘆息

一日壬申戌

一日壬乙亥

今年上米意二己年也十九年、官字子酉年入國  
支那、月毎年、南、北、東、西、

三石、四石

伊丹 播磨守 康勝

根知 守左衛門

長林 守左衛門

古林 守左衛門

岩井 守左衛門

吉野 守左衛門

用人

山崎定之丞

三石

信向 守左衛門

野願 守左衛門

流尾 守左衛門

林 丹後守

栗山 守左衛門

徳山 守左衛門

市上使

八百石

六百石

四百石

二百石

堀江 守左衛門

水田 守左衛門

今年  
三石名  
一百俵

拾四石  
一拾俵

拾石  
一拾俵

拾石  
一拾俵

拾石  
一拾俵



一寛永十三丙子

内閣上帳  
一浪之目昔之移之七

一浪之目昔之移之七

一日丙丁七

内閣上帳  
一浪之目昔之移之七

一浪之目昔之移之七

一日十五戊寅

内閣上帳  
一浪之目昔之移之七

一浪之目昔之移之七

此浪之目昔之移之七

一日十六己卯

一日十七庚辰

流人 或御正由正由正由 江戸中田所 二助之助

一日十八辛巳

内閣上帳  
一浪之目昔之移之七

流人 下野正由所 高京正由所 江戸中田所 長助 信長

一日十九壬午

岩崎為屋は江戸に在り久保新右衛門共未正月より人持控  
令方中は皆我手より持控の内は未正月より持控の内は  
江戸に在り此浪之目昔之移之七は未正月より持控の内  
内閣上帳  
一浪之目昔之移之七

流人 或御正由正由正由 江戸中田所 長助







此方より後述

久保新吉乃丹南年之地方代官。一月廿八日、  
正月、山形抄入。二月廿日、南年、我より南年、  
是六新吉乃丹、今方、山形、但西元、山形、  
山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
右、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
流、山形、山形、山形、山形、山形、山形、



一 山形抄入

二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、

二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、

二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、  
二月、山形、山形、山形、山形、山形、山形、











一 山形平左衛門右衛門入平山左衛門

一 山形傳右衛門左衛門之叔山形左衛門右衛門及山形左衛門右衛門

世系之山形

一 山形右衛門左衛門右衛門左衛門右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門左衛門右衛門左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門左衛門右衛門左衛門

一 山形右衛門左衛門右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門右衛門

一 山形左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門

一 山形左衛門右衛門

一 山形右衛門左衛門



乃有本通之北名お庭一山邊分秘以分存之山  
二月六日

奥野七許書

久保新左門

星林信長

根本多九郎

星野新左門

九月 山邊分秘  
市邊所 山邊分秘

一浪公前移三費九百日後月日

一茶女元氏子

流人 日見山一坊、日城祐坊 日城正坊 日城秀坊  
一日二已七

一浪公前移三費九百日後月日

一日之庚寅

小比之山蓮花峯寺末寺境内五百坪分秘内山邊分秘  
以岩地一及之各西三月廿四日一立書紙以紙立作月利田契  
他ノ書及由之者一及又蓮花峯寺末寺内不為地ノ書及由諸  
者一及自新書お徳持由之六紙一通之紙有為地ノ紙止  
右新書お徳持

一浪公前移三費九百日後月日



一 芳安四章卯

家綱公征夷大將軍

湯山每月以用多致了方不立場而止  
一 新附  
一 岩松之儀  
井上權左衛門  
玄崎茂左衛門  
渡邊次郎左衛門  
海部右左衛門  
古橋左衛門  
内田六左衛門  
九田金左衛門  
早川右衛門

右様主人親切御書儀  
一 新附  
一 五拾儀  
三橋忠左衛門

此後極 左衛門極祖父と少少者者親の  
一 五拾儀  
一 六拾儀  
正々御書儀  
一 新附  
一 五拾儀  
一 六拾儀

此書人御書儀  
一 新附  
一 五拾儀  
一 六拾儀  
田中六左衛門  
堀内治左衛門

芳安四年  
上京之儀



卯二月九日

号部勤修

号林修善の友

奥野七郎の友

辻小次郎の友

之保新吉の友

大和のまゝの友

管上様

一 庚辰 辰吉の松の貴公堂 九日

一 兼 辰元 壬辰

正月 杉平 辰辰見之人 壬辰 全松 寅辰

山 運上 辰辰 寅辰 辰辰 七石 辰辰 辰辰

大次 湯山 去秋 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

片山 勤修 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

小比 殿山 蓮花 奉寺 一礼 辰辰

一 當辰 三月 曾过 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰

辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰 辰辰







久保新太郎

尾野七左衛門

北野人小比叡山長祿軍其の相勅

尾町三郎

許井之太

世々人出叡山長祿軍其の勅尾町病室其子孫

谷代之長祿

許井保下町

此尾志之信

後書

谷田之長祿

世々人出叡山長祿軍其の勅尾町病室其子孫

小比叡山捕籠者

此後在舊(佐後)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)

口名新(佐)











一 奥野七郎左衛門正八郎左衛門之孫新左衛門正三人之孫信之  
 此信當年より下は是の通年此等公の由り申すは  
 是 上より大に通りおのり信之入此等申す事  
 一 坪井左衛門正八郎左衛門の孫信之當年より下は  
 信之入此等申す事

一 羽黒山正光寺裏判し付代杉賣付代限は下り  
 此等申すは信之入此等申す事  
 右の由り信之入此等申す事  
 羽黒山の杉賣りより信之入此等申す事  
 一 個并川杉賣りより信之入此等申す事

為代下り入用羽黒の盗伐賣り杉代限と下り事

一 小比敵室花坊出雲崎の杉賣り物二箇に成りし日也  
 相改言下り事

一 依後國中法能行程者より信之相改言信之可  
 下り事

一 田中左衛門正八郎左衛門の杉子付届事  
 一 尾町正八郎左衛門の四月相果備代代所事

下り事  
 一 尾町正八郎左衛門の四月相果備代代所事  
 下り事  
 一 尾町正八郎左衛門の四月相果備代代所事  
 下り事  
 一 尾町正八郎左衛門の四月相果備代代所事  
 下り事

此の由り信之入此等申す事







圖書印

一、今度光復の爲め  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、



